香川県立保健医療大学リポジトリ

独立行政法人国際協力機構（JICA）事業理解促進調査団によるガーナ国派遣業務報告

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-06-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 太田, 安彦, Ohta, Yasuhiko メールアドレス: 所属:
URL	https://kagawa-puhs.repo.nii.ac.jp/records/258

独立行政法人国際協力機構（JICA）事業理解促進調査団による ガーナ国派遣業務報告

太田 安彦*

香川県立保健医療大学保健医療学部臨床検査学科

Report of a Japan International Cooperation Agency (JICA) Investigation Team's Trip to Ghana to Promote Understanding of the Group's Activities

Yasuhiko Ohta*

Department of Medical Technology, Faculty of Health Science, Kagawa Prefectural College of Health Science

要旨

現在，独立行政法人国際協力機構（JICA）という言葉は耳にしても,実際にその活動内容を理解している人はそれほど多くないと思われる．そこで，実際に隊員の活動を見てもらい，広くJICAの活動を理解してもらうことを目的として，派遣隊員のいる現地に調査団を派遣することとなり，JICAから本学に対して調査団への参加依頼があった．今回の派遣先は西アフリカのガーナ共和国であった．調査団は現地での隊員たちの活動を視察し，また会談を行った．本報告書では，現地におけるJICAの活動を理解したうえでの広報活動を行うとともに，今後のJICAの活動の在り方について問題提起を行う．

Key Words: 独立行政法人国際協力機構（JICA）（Japan International Cooperation Agency (JICA)），ガーナ共和国（Republic of Ghana）

*連絡先：〒761-0123　香川県高松市牟礼町原281-1　香川県立保健医療大学保健医療学部臨床検査学科　太田 安彦

*Correspondence to: Yasuhiko Ohta, Department of Medical Technology, Faculty of Health Science, Kagawa Prefectural College of Health Science, 281-1 Murecho-Hara, Takamatsu, Kagawa 761-0123, Japan

1．はじめに

今回，著者は国際協力機構[1)2)]（以下JICAと記す）の事業理解促進調査団参加の要請を受け，調査団員として2015年９月２日から９月９日までの計８日間，ガーナ共和国における視察を行った．本稿でその視察内容について報告する．

著者に依頼されたことは，ガーナ共和国で活動しているJICA隊員の活動を視察，及び隊員と会談し活動理解を深めることであった．また，さらに視察結果と今後のJICAの在り方を報告することであった．

2．調査団概要

青年海外協力隊現職派遣や民間連携ボランティア制度に加え，中小企業海外展開支援制度等JICA事業への理解促進のため，JICAボランティアの活動現場及び，政府開発援助事業の視察を行い，さらにJICA事務所を訪問した．また，同時期に開催される「世界とHIRAHIRA-JICAみんなの笑顔美術館inガーナ」[3)]が，ガーナ共和国で開催される現場を視察した．

「世界とHIRAHIRA-JICAみんなの笑顔美術館」とは，活動中の青年海外協力隊から募集した「世界の人々の笑顔」Ｔシャツと，一般応募作品の中から選ばれた「世界でひらひら賞」の受賞Ｔシャツが10か国を巡回する，砂浜美術館[4)]とJICA四国とのコラボ企画であった．

3．ガーナ共和国について

ガーナ共和国は西アフリカにある人口約2,590万人（2013年），国土面積（238,537km^2）が日本の約３分の２の国である（図１）[5)]．15世紀には奴隷貿易の拠点となっていたが，その後金が産出することがわかると，金と奴隷の貿易が19世紀まで続いた．奴隷の多くはアメリカ合衆国に連行され労働力として使われていた．脱植民地化が活発であった最中の1957年にイギリスから独立し，イギリス領黄金海岸（ゴールド・コースト）から現在のガーナ共和国になった．首都はアクラである．ガーナ共和国は10の州から構成されている（北部のアッパー・イースト州，アッパー・ウェスト州，ノーザン州，中部のアシャンティ州，ブロング＝アハフォ州，南部のウェスタン州，セントラル州，ヴォルタ州，イースタン州，グレーター・アクラ州）（図２）．複数の民族が存在し，公用語は英語（ただし，年配の人ほど通じない）で，他に各民族語が数十ある．宗教は国民の約半数がキリスト教（日曜日には町中で賛美歌が聞こえてくる）で，イスラム教が約15％，その他は伝統的宗教である．通貨はガーナセディ（１ガーナセディは2015年９月現在日本円で約32円，100ペソワで１ガーナセディ）である．主な産業は鉱業（金，石油），農業（カカオ）（写真１，写真２），林業（木材）である．国技はサッカーである．国内には世界遺産が２つある（ヴォルタ州，グレーター・アクラ州，セントラル州，ウェスタン州の城塞群とアシャンティの伝統的建造物群）．

図１　アフリカ大陸全体図

図２　ガーナ共和国全体図

日本との関係では，野口英世がイギリスの植民地下のガーナ共和国で黄熱病の研究中に死去しているなど古くから関係があり，日本の援助で，1979年にガーナ大学に研究所が設立されている．JICAガーナ支局に野口英世の履歴書が展示されている．（写真３）

近年，米栽培のプロジェクトによって農村部における米の収穫量が２～４倍になった為，収入も1.5倍になっている．

治安はあまり良くない．特に現在は各種要因によって治安が悪くなっている．要因として，ガーナセディの価値が半分になっているため輸入品の価格が２倍になっていることや，燃料費の高騰から輸送費も高くなっていること，そして大統領選挙が来年行われるため，各候補者の支持者たちの間でトラブルが多くなっていることなどが挙げられる．

写真１　カカオの実

写真２　カカオの種

写真３　野口英世の履歴書（JICAガーナ支局内）

４．JICAガーナ支局と派遣隊員

現地に着いてまず初めに訪問したのは現地のJICA支局であった．調査団到着の挨拶と現地の隊員たちの活動状況，現地でのJICA支局としての業務内容，さらには滞在期間中の注意事項などについて話を伺った．ガーナ支局は現在事務所職員46名（内日本人は21名），隊員が67名いる[6]．隊員の内訳は教育系が25名，スポーツ系が２名，障害者支援が１名，保健系が21名，産業系が18名である．隊員は女性の方が多い（67名中35名）．平均年齢は27歳である．教育系の隊員は教員免許が必要であり新卒が多い．医療系と産業系は３年以上の実務経験が必要であるため30歳以上が多い．年に１名くらい生活面，仕事面で悩み帰国する者もいる（女性が多い）．先に挙げたように治安があまり良くないため，隊員が犯罪に巻き込まれることもある．すでに現在までに13名の隊員が巻き込まれている（今年は現在の所２名）．特に，朝や夜に多く，犯罪の内容としてはスリや，強盗が多い．銃社会であるということも影響している．そのため隊員には１人では出歩かない，人通りの少ないところには行かないなどの注意喚起をしている．

５．現在の課題

多くの隊員を派遣しているJICAではあるが，それでもガーナ共和国内において人手が足りていない現状がある．特に，保健系，農業系，教育系（理科，特に実験），Information and Communication Technology（ICT）の分野で人手不足である．ICTは現在のガーナ共和国における教育においては必須科目となっている．それ以外にはガーナ共和国を含めアフリカの数か国で，日本の母子手帳の要望がある．これは胎児や乳児の死亡率が高いことに由来する．また，常駐する学校保健室の先生が少ない．昨年ガーナ共和国で初めて保健室ができたくらいである．就学率は高く６年間の初等教育と３年間の中等教育が義務教育であり，中等教育を経て３年間の高等教育への道が開ける（初等教育の就学率は80％位）．英語教育は初等教育から行われる（授業はすべて英語）．しかし，教員の質が低いため，現在JICAが教員の質の向上を行う活動を行っている．

６．視察内容

今回の調査団における調査は，３人の隊員の勤務地の視察と会談することである．１人目はイースタン州のアキム・オダに派遣されている，感染症・エイズ対策担当隊員，２人目はセントラル州のケープ・コーストに派遣されている，地域おこし担当隊員，３人目はグレーター・アクラ州のアクラに派遣されている，スポーツ担当隊員である．

１人目の感染症・エイズ対策担当隊員の視察では，日本でのコミュニティヘルスセンターに相当する施設を訪れ，現地で行っている活動について話を聞いた（写真４，写真５）．この施設は，ガーナ共和国政府による保健サービスアクセス格差是正戦略のCommunity Based Health Planning and Services（CHPS）により作られた施設である．現地のJICA職員は，施設そのものもCHPSと呼んでいる．このCHPSでの仕事内容は①施設の改善，②日常業務（データ入力，HIVミーティング，ポリオワクチンの配布，蚊帳の配布など）③クリーンアップ運動などである．具体的には，HIVに対する知識を教授したり，ポリオやマラリアに対するワクチンの配布，さらに，蚊帳の配布などを定期的に行っている．ガーナ共和国において蚊に対する対策で最も効果的なものが蚊帳である．現地にも蚊取り線香は存在するが効果が薄い．その他には，コミュニティヘルスセンターでの指導，助言，患者のデータ入力や，学校などで掃除の有効性についての指導，手洗いの指導（写真６）なども行っている．現地では掃除をしても翌日にはすぐゴミだらけになる（当たり

写真４　YOUTH FRIENDLY HEALTH CENTRE

写真５　センター内のスタッフとのミーティング

前のように皆が道などにゴミを捨てる為，このようなことになるではないかと思われる．ゴミ箱という概念がないのか，公共施設（ホテルやショッピングモールなど）以外でゴミ箱を見た記憶がない）．また，手洗いの教育がない．その為，手洗いの指導をしても住人たちの意識改善はほとんどみられない．それでも根気よく続けると少しずつ変わってきている．住人たちの意識改善がない理由の１つに水道が無いことが挙げられる．遠くまで行って汲んできた水の優先順位の１番は料理である．自分たちが生きていくうえで必要な食べることに対して水を使用する．その貴重な水で手を洗うという行為が考えられないらしい．したがって，隊員が苦労しているのは手を清潔に保つ方法である．コミュニティヘルスセンターを利用する人のほとんどがマラリアの疑いがある患者か，妊婦の検診である．また，衛生環境からか，淡水にはビルハルツ住血吸虫がいる為，泳いだことで感染する事例もあることから，寄生虫検査も極稀に行われることもある．その為，業務のほとんどが患者のデータ入力となる．また，隊員はどんなプロであっても医療行為をしてはいけないことになっているため，このような業務が中心となる．しかし，視察場所で出会った．助産師の隊員に聞いた話では，出産時の医療行為は現地と日本では異なり，現地の方法では死産になることもあるらしい．そういった場面では，思わず手を出してしまったとの事であった．

２人目の地域おこし担当隊員の視察では，セントラル州のケープ・コーストの海岸で行われている「世界とHIRAHIRA-JICAみんなの笑顔美術館inガーナ」（写真７）を見学した．すぐ隣には世界遺産の１つである，ケープ・コースト城[7]がある．このイベントは，活動中の青年海外協力隊から募集した「世界の人々の笑顔」Tシャツと，一般応募作品の中から選ばれた「世界でひらひら賞」の受賞Ｔシャツ[8]が10か国を巡回する．「世界とHIRAHIRA-JICAみんなの笑顔美術館inガーナ」は，高知県にある砂浜美術館が毎年行っている「Tシャツアート展」を，地域おこし担当隊員がガーナ共和国で行いたいという希望から始まった．隊員の青年協力隊応募のきっかけが，以前モンゴルで行われた「Tシャツアート展」の様子を雑誌で見て興味を持ち，そして自分がガーナ共和国に派遣されたらガーナ共和国で「Tシャツアート展」を開催したいというものであった．先ず，2015年の青年海外協力隊派遣50周年に合わせ，「やるなら今！」という思いから，協力隊仲間と共に実行委員会を発足させた．その後，ガーナ共和国北部にあるカンジャガ村でワークショップを開催した．そして現地の子どもたちの作品と協力隊仲間の作品を，HIRA HIRAフレンドシップメンバーとして，砂浜美術館のTシャツアート展に応募した．高知での開催後，次はガーナ共和国での開催となり，今回９月５日，６日に開催された．９月５日は地元のお祭りもあった為非常に多くの人たちが訪れていた．また，会場では同時にワークショップも開催していた（写真８）。

写真６　感染症･エイズ対策担当隊員の手洗い運動の取り組み

３人目のスポーツ担当隊員の視察では，首都のアクラで実際に野球を教えている所を訪れた．球場はKOSHIEN球場（写真９）と言い，2014年に日本の協力のもと作られた球場である．隊員は現役の上智大学の学

写真７　世界とHIRAHIRA-JICAみんなの笑顔美術館inガーナ

写真８　世界とHIRAHIRA-JICAみんなの笑顔美術館in
ガーナでのワークショップ

生で野球部員である．現在休学してガーナ共和国に派遣されている．スポーツ担当隊員で英語が話せる人は非常に少ないらしい．訪問した時は丁度野球の指導をしている最中で，生徒が５，６人程居た（写真10）．教えているのは小学生くらいの子供と，経験者と思われる中学生であった．小学生は男の子だけでなく女の子もいた．ガーナ共和国は先に述べたように，国技はサッカーである．ガーナ共和国で行われるスポーツの割合は，サッカーが98％を占めており，他の競技は極めてわずかである．したがって野球をしたことがない人がほとんどで，我々が訪問したときにはキャッチボールはかなりできるようになっていたが，バットを振ることは構えも含めてまだまだであった．しかし，ガーナ共和国にも現在はナショナルチームが存在する．

７．JICAの活動における問題点

実際に視察し，隊員との会談を通じていくつか問題点が浮かび上がってきた．

問題点の１点目は，派遣隊員の誰しもがやりたいことを持ってそれぞれの任地に行っており，やりたいことの実現のために日々努力しているが，その手段は果たしてベストなのだろうかという点である．今回の視察内容には記載していないが，先の３か所以外の隊員とも会談をする機会があった．その隊員はガーナ共和国に来てまだ１か月ほどしかたっていない為か，まだ何も活動らしいことはできていない．その隊員は小学校の教員として派遣されており，やるべきことはわかっているのだろうが，その手段が不明瞭である為，行動に移せていなかった．

また，今回会談した地域おこし担当隊員にしても，ガーナ共和国で「Tシャツアート展」を行いたいという目標を持って派遣されたが，今回の視察中にそれは終わった．では残りの任期には何をするのだろうか．今後新たな企画が必要になってくる．

そして，感染症・エイズ対策担当隊員は臨床検査技師である．さらに聖路加病院で６年間現場経験を積み，その資格と経験を持ってガーナ共和国に来ているが，実際行っている検査業務はマラリアの検査と妊婦健診のみである．もちろんHIVミーティングを行っていることから，

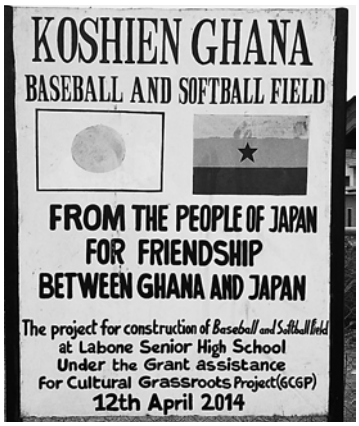

写真９　首都アクラにあるKOSHIEN球場

写真10　野球の指導をするスポーツ担当隊員

医療知識が必要なのはわかるが，臨床検査技師の資格をフルに使えてないのもまた事実である．

３人の中で１番機能しているのはスポーツ担当隊員ではないだろうか．彼はガーナ共和国の人たちに野球を教えている．やりたいことが明確でありその手段も理解している．野球発展途上国のガーナ共和国では，そのゴールまでは長く，おそらく２年間の任期では大きな実績にはならないだろうが，後に続く実績にはなると思われる．

派遣隊員には募集時，あるいは派遣が決まってからの数か月の講習期間中に，自身が現地でやりたいことに対するタイムスケジュール的なものを作成し，それをチェックする機構が必要ではないかと考える．また，実際に活動している途中でも，定期的に自己評価，第３者による客観的評価が必要なのではないかと思われる．もちろん，途上国からこのような人材がほしいという要望を受けて，それに見合った人材を用意する形になる以上，選考に時間がかかりすぎることが問題になるのも事実である．

問題点の２点目は，２年という派遣期間が参加しようという思いに「待った」をかけている部分もあるのではないかという点である．即ち，たいていの社会人は，２年間も職を離れるのは難しいという事である．再就職するにしても，現状臨床検査技師は非常に厳しい．故に，今回会談した感染症・エイズ対策担当隊員は，病院を退職して赴任している為，任期が終了した後，帰国してどうするのかが気になる所である．したがって，これらの就職対策がなされればJICAの活動に参加する現場の臨床検査技師も増えるのではないか．あるいは短い期間の

派遣があれば，また変わってくるのではないかと思われる．また，臨床検査技師や看護師，助産師に限らず，教育担当や地域おこし担当であっても，帰国後にどこで何をしているかが不明瞭である．隊員のその後についてどうであるか，あるいはJICAが再就職のバックアップをしているのか，そういったところも不安要素ではないか．JICAとしても帰国後の隊員に講演をしてもらったりしているようだが，宣伝がJICAのHP上であったりと，なかなか一般市民の目に触れにくい手段であることも，今後の課題の１つであると思われる．そしてこれらの視察団の報告自体も現地隊員にフィードバックして問題解決の糸口にすることも必要ではないか．

8．おわりに

おわりに，今回のJICAの調査団に参加して良かったと思っている．今回自分自身が，国外へ出ることが初めてであった為，わからないことが多くあった．何をするのも初めてであった．海外渡航のための手続き，パスポートの申請，出国の手続き，トランジット，出入国カードの記入，入国審査など多くのことに関して経験することができた．出発前にはそのようなことがあるとは全く知らなかった．そして，その多くが英語で行わないといけないという所が自分には不安要素であった．例えば，入国審査時における出入国カードの書き方，入国審査時におけるやり取りなどは，事前に知っていなければ戸惑ってしまう．実際自分の場合はかなりあたふたしたことを覚えている．入国審査があることや，その方法について事前に調べられることに気付いていれば，問題なくクリアできていたのではと思った．また，今回の調査団の他のメンバーの中には，アクラ空港到着時に呼び止められ，荷物チェックをされた上，お金を要求された人もいた．もし自分がされていたら，何を言われたのかを理解できたか自信がない．裏をかえせば，語学問題さえクリアすれば海外派遣に何の障害もないと思われる（赴任先の環境に馴染めるかは別問題であるが）．先に述べたように，出発前の隊員には一定の講習期間がある．その内容のほとんどが語学に関するものである．少なくとも会話ができるレベルになってから現地へ派遣されるそうである．このシステムを誰もが参加できるスタイルにできるのなら，もっとJICAの活動に参加しても良いと思う人も増えるのではないかと思われる．JICAでは年２回隊員の公募をしている[9)10)]．もし興味のある方は一度JICAのHPにアクセスする事をお勧めする．

文　献

1）独立行政法人　国際協力機構（JICA）の取り組み（ガーナ），2015-10-8，http://www.jica.go.jp/ghana/index.html
2）独立行政法人　国際協力機構　四国（JICA　四国），2015-10-8，http://www.jica.go.jp/shikoku/
3）砂浜美術館「世界とHIRAHIRA-JICAみんなの笑顔美術館」，2015-10-8，http://www.sunabi.com/news/hirahira-sekai/
4）砂浜美術館　T-shirt Art Exhibition in GHANA！Tシャツアート展 in ガーナ，2015-10-8，http://www.sunabi.com/news/t-shirt-art-exhibition-in-ghana/
5）外務省ホームページ　ガーナ共和国，2015-10-8，http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ghana/
6）パンフレット JICAボランティア，独立行政法人国際協力機構青年海外協力隊事務局，13-14，2015
7）高尾具成．“サンダルで歩いたアフリカ大陸”，初版，岩波書店，東京，183-194，2013.
8）HIRAHIRA2015 第27回Tシャツアート展，砂浜美術館，2015-10-8，http://www.sunabi.com/past_exhibition/27th-t-shirt-art/
9）募集要項 青年海外協力隊 日系社会青年ボランティア，独立行政法人国際協力機構青年海外協力隊事務局，2015-10-8，http://www.jica.go.jp/volunteer/application/seinen/require/
10）募集要項 シニア海外ボランティア 日系社会シニア・ボランティア，独立行政法人国際協力機構青年海外協力隊事務局，2015-10-8，http://www.jica.go.jp/volunteer/application/senior/require/

Abstract

Some people might have heard of Japan International Cooperation Agency (JICA), but, there are not many who actually understand its activities. To promote understanding of the activities of JICA volunteers by actually observing them, JICA decided to dispatch an investigation team to a site where JICA volunteers are working, and JICA asked for our university's participation. The destination of the team was the Republic of Ghana in West Africa. The investigation team observed the activities of on-site volunteers, and had meetings with them. This paper reports on the trip based on an understanding of JICA's field activities and points out issues related to the group's way of conducting its work in the future.

受付日　2015年10月９日
受理日　2016年１月29日